

# 高校における「水辺での野外活動の力を育む」取り組み

— 修学旅行でのスノーケリング体験を柱にして —

保健体育科 松本 英樹

## 1. はじめに

本校の修学旅行の行き先に沖縄を選んでいる学年は多く、民泊体験やマリン実習を中心としたプログラムを、生徒が積極的にアレンジし、“自分たちの修学旅行に作り上げることができる”のが魅力だとしている。マリン実習においては、スノーケリング体験が人気で、沖縄の美しい海を現地では安心・安全に楽しむことができるように、事前に学校のプールで、外部指導者から基本的な知識や技術を学ぶ機会を設けてきた学年もある。

昨年度の2年生（130回生）の修学旅行も沖縄でのマリン実習を計画しており、そこに向けた準備を進めていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大によって修学旅行は中止となり、事前のスノーケリング実習も中止となってしまった。コロナ禍が続く中で、本年度の2年生（131回生）も11月の修学旅行に向けて早くから生徒の委員会を立ち上げ動き出したが、具体的に何から決めてよいのかわからず、くすぶる状態が続いていた。

“不確定なこと”が多いコロナ禍の教育活動にあって、本校の体育科ではスポーツ庁の通達を基に、2020年度においても水泳授業を実施することができていた。よって、「修学旅行の実施有無に関わらず、学校のプールでのスノーケリング実習は、実施できる“確かなこと”」として捉えることができた。『修学旅行でのスノーケリング体験をゴールとするのではなく柱として、生涯にわたって活かせる力を育む』を前面に打ち出し、準備を進めることにした。

7月に発令された緊急事態宣言や、修学旅行直前に起きた軽石問題などにも苦しめられたが、最終的には、沖縄伊平屋島（右図）へ行くことができ、ボートからのスノーケリング体験で、“いへやブルー”と言われる美しい海の中を生徒たちは観ることができた。そこで、多くの方々の理解と協力を得て実施することができた本年度の取り組みについて報告する。

次項に、本取り組みの全体像を示す。



1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
東京／那覇	伊平屋	伊平屋	伊平屋／那覇	那覇／東京
平和学習	学級活動	スノーケリング	民家手伝	班別行動

伊平屋島の位置と修学旅行の主な内容

【本取り組みの全体像（4月時点での計画）】

2021年度・2年生対象 「水辺での野外活動の力を育む」 取り組み  
スノーケリングとスキンドайビングの実習について

『自然の中での遊びなどの体験が不足しているなど、現在の生徒を取り巻く社会環境の中では、自然との関りを深める教育が大切である』（高等学校学習指導要領解説・保健体育編）ことから、諸条件を整えながら、本校においても積極的に野外活動を展開していきたい。

- 目的 ①修学旅行先の沖縄伊平屋島（米崎ビーチなど）で、安全にスノーケリングができるようになる  
②コロナ禍の影響で修学旅行先（海）を変更しても、安全にスノーケリングができるようになる  
③修学旅行で海に行けない場合でも、将来のために、安全にスノーケリングができるようになる  
④水辺での発展的活動について学び、将来のために、安全なスキンドайビングについて理解する

※スノーケリング：十分な浮力による、水面での活動

スキンドайビング：適切な浮力調整と息こらえによる、水中での活動

計画（11月に修学旅行を実施する予定で、）



## 2. 修学旅行までの事前準備

### (1) 4月の「体制づくり」

保健体育科（4月6日）や第2学年担任団（4月7日）で検討した後、教員会議においても本取り組みを説明して理解を得た。外部指導者については、以前にも協力していただいていた元筑波大学教授で日本スノーケリング協会副会長の吉田章先生と、新たに筑波大学野外運動研究室の渡邊仁先生にお願いすることになった。また、基本的にはスノーケリング器材（水中マスクとスノーケルの2点）を生徒の個人購入とするため、5月1日のオンラインによる保護者会で本取り組みの趣旨を説明して理解を求めた。

### (2) 5月の「用具の準備」と「HRでの学年全体への説明」

水中マスクとスノーケルは個人購入を基本として、フィンについては、沖縄でのスノーケリング体験や学校プールでの練習時には、現地のフィンをレンタルしたり（旅行代金に含む）、本校が所有しているフィンを貸し出すことにした。ただし、現地や本校所有のフィンは、裸足で履くブーツタイプなので、希望者には、マリンシューズとストラップタイプのフィンも同時に購入できるようにした。なお、器材購入については、AQA（株式会社キヌガワ）の本社にて相談を重ね、協力していただいた。

そして、5月18日（火）6限のHRの時間に、本取り組みの目的と全体像、器材購入について、生徒全体にオンラインで説明した。（以下は、その際に使用したスライドの一部）



沖縄・伊平屋島に向けた「スノーケリング実習」を本年度は、生進スボーツを学習するという観点から、実施します！

5月	スノーケリング器材の個人購入 マスク・スノーケル + 希望(フィンやブーツ)
7月	専門の指導員によるスノーケリング指導 ・日本スノーケリング協会 7/12 ・筑波大学野外運動研究室 (A)8
8月	
9月	水泳授業における指導
11月	沖縄・伊平屋島でのスノーケリング体験



※ 学校のプールでは、フィンを用意しています。

※ 沖縄・伊平屋島でのスノーケリング体験では、ウエットスーツ、ライフジャケット(浮力ベスト)、フィンを用意しています。



「注文書」を本日配布

⇒ 5/24(月) 注文書とお金を封筒に入れて担任に提出

※ 5/19(水)～21(金) 放課後・前庭で相談会

### スノーケリング器材の購入状況（2021）

品名	(人)
・水中マスク&スノーケル	219
・水中マスク(度付き)&スノーケル	1
・フィン	112
・マリンシューズ	125
・水中マスク&スノーケルを未購入(既に保有しているなど)	25

(3) 7月の「本校での事前講習 I ～スノーケリング実習～」⇒ 延期

スノーケリング実習は、女男別に午前と午後に分けた上で、全体講義とグループ学習を企画した。『野外での楽しみ方』は、夏季宿泊合宿（蓼科生活）に向けた内容を含む新たな試みであったが、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、7月12日から緊急事態宣言が発令されること7月8日に発表されたため、7月12日に予定していたスノーケリング実習は8月末に延期することになった。※8月末は中学水泳部の練習日であったが、協力していただいた。

【スノーケリング実習 はじめの予定】

2021年4月25日作成

**2021年度・2年生対象 「水辺での野外活動の力を育む～スノーケリング実習～」 7/12の流れ**

7月12日 (月) AM: 女子	女子 2・4・6組 約60名	女子 1・3・5組 約60名	場所
8:50	登校完了 健康観察カードの配布/記入/提出		桐蔭会館
09:00～09:45	全体講義「水辺での野外活動（スノーケリング）」 担当：吉田先生		桐蔭会館
10:00～11:00	スノーケリング実習 担当：吉田先生 + 筑波大院生4名	講義「野外での楽しみ方」 担当：渡邊先生	プール/桐蔭会館
11:15～12:15	講義「野外での楽しみ方」 担当：渡邊先生	スノーケリング実習 担当：吉田先生 + 筑波大院生4名	桐蔭会館/プール
12:30	完全下校		

7月12日 (月) PM: 男子	男子 2・4・6組 約60名	男子 1・3・5組 約60名	場所
13:20	登校完了 健康観察カードの配布/記入/提出		桐蔭会館
13:30～14:15	全体講義「水辺での野外活動（スノーケリング）」 担当：吉田先生		桐蔭会館
14:30～15:30	スノーケリング実習 担当：吉田先生 + 筑波大院生4名	講義「野外での楽しみ方」 担当：渡邊先生	プール/桐蔭会館
15:45～16:45	講義「野外での楽しみ方」 担当：渡邊先生	スノーケリング実習 担当：吉田先生 + 筑波大院生4名	桐蔭会館/プール
17:00	完全下校		

※ 講師は、吉田章先生（元筑波大学教授・日本スノーケリング協会副会長）  
渡邊仁先生（筑波大学助教・野外教育論） + 野外運動研究室の大学院生4名が補助

※ 雨天決行。荒天時は、プール実習のみ別日に本校体育科（松本）が指導をおこなう。

※ スノーケリング器材（マスク・スノーケル）は、個人購入とする。  
フィンやマリンスーツ等も含めて、器材購入の案内（幹旋）は学校で生徒全体におこなう。

※ 4月27日（火）に生徒に説明（担任から日程等を中心に）、5月1日（土）に保護者会で説明する。

(4) 8月の「本校での事前実習Ⅰ～スノーケリング実習～」⇒ 実施

緊急事態宣言の解除(8/22)が延期日の直前となり、外部指導者と相談を重ねた結果、本校の体育科教員と第2学年の担任団のみで、1回の生徒人数を40名に絞り、健康観察を徹底するなどコロナ対策を施した上で、スノーケリング実習を実施することになった。

**【スノーケリング実習 延期後の予定】**

8月25日(水) 女子		動き	場所
①	8:15	登校完了 健康観察カードの配布/記入/提出 → 更衣	前庭 → プール女子更衣室と校舎2F更衣室
	08:30~9:45	スノーケリング実習 1・4組 (40名) 担当: 本校の体育科教諭5名+第2学年担任2名	プール
	9:55	更衣終了	
②	10:00	登校完了 健康観察カードの配布/記入/提出 → 更衣	前庭 → プール女子更衣室と校舎2F更衣室
	10:15~11:30	スノーケリング実習 2・5組 (40名) 担当: 本校の体育科教諭5名+第2学年担任2名	プール
	11:40	更衣終了	
③	11:45	登校完了 健康観察カードの配布/記入/提出 → 更衣	前庭 → プール女子更衣室と校舎2F更衣室
	12:00~13:15	スノーケリング実習 3・6組 (40名) 担当: 本校の体育科教諭5名+第2学年担任2名	プール
	13:25	更衣終了	

8月26日(木) 男子		動き	場所
①	8:15	登校完了 健康観察カードの配布/記入/提出 → 更衣	前庭 → 柔道場を予定
	08:30~9:45	スノーケリング実習 1・4組 (40名) 担当: 本校の体育科教諭5名+第2学年担任2名	プール
	9:55	更衣終了	
②	10:00	登校完了 健康観察カードの配布/記入/提出 → 更衣	前庭 → 柔道場を予定
	10:15~11:30	スノーケリング実習 2・5組 (40名) 担当: 本校の体育科教諭5名+第2学年担任2名	プール
	11:40	更衣終了	
③	11:45	登校完了 健康観察カードの配布/記入/提出 → 更衣	前庭 → 柔道場を予定
	12:00~13:15	スノーケリング実習 3・6組 (40名) 担当: 本校の体育科教諭5名+第2学年担任2名	プール
	13:25	更衣終了	

※ 講師は、松本(本校体育科教諭・スクーバダイビング指導者)を主担当とする。  
補助に、征矢・鮫島・今西・中塚(本校体育科教諭)と菱沼・高木・大庭・岩田(第2学年担任団)  
※ 8/25・8/26に参加できない生徒は、8/28午後男女共修で実習をおこなう。

## 【スノーケリング実習の内容】

2021年度 筑波大学附属高校『スノーケリング実習』指導内容		2021.8.17作成 (松本)
事前	8月20日(金)にGoogle classroom <131学年>に連絡を流す ・スノーケリング器材の準備(マスク&スノーケル等に記名) ・「スノーケリング安全手帳」のURLを載せる 学習ポイントを指示…スノーケリングの定義(スキndaイビングとの違い)など ・実習当日の流れ ・コロナ対策と体調管理(健康観察カード)	マスク&スノーケルは各自で用意(貸出不可)
当日 各クラス 70分程度	・前庭にて出席と健康観察カードの確認+更衣場所の指示 ・プールサイド集合(40名程度) 2人ペア(ボディ)で各コースに2~3組ずつ座る。1と9コースを3組とする ①健康チェック(口頭で全体に向けて再度確認):本来のボディチェックを説明 ②本日の「スノーケリング実習について」※指導体制:吉田先生→松本への変更を説明 【目的】生涯スポーツとしてスノーケリング基礎を学ぶ~「教える」の視点も大切に~ ③器材の説明 (1)フィンの貸出 …ブーツタイプで各サイズあり、自分に適した物を選択 (2)フィン …マリンシューズとストラップフィンの仕組み、履き方 (3)マスク …はめ方、曇り止め、コンタクトレンズへの注意 (4)スノーケル …排水弁の確認、マスクへのつけ方、くわえ方と呼吸方法 (5)準備運動 ④前半 …シャワーを浴びて、各コースに再集合した後に開始 (1)器材の装着 …ボディチェック (2)フィンでの陸上移動と入水方法を説明 (3)エントリー …静かに入水後、各コースで広がる(目印をプールサイドに設置) 基本的に、海では入水後にマスク&スノーケルを外さない! (4)説明時は、全員プールサイド(管理室側)を向かせる ①スノーケル呼吸 …あ・い・うで啜える、ゆっくり吸って一気に吐く ②スノーケルクリア …一度に全て排水するのは難しい、練習を重ねる ③水面でのフィン泳 …フラッターキック、25m完泳 フィンワークとスノーケルの角度を確認→練習 ⑤休憩 …退水方法を指示し、全員プールサイドから上がる、ボディチェック ⑥後半 …各コースに集合 (1)器材の装着 …ボディチェック (2)エントリー …ジャイアントストライドエントリー(水面の安全を確認) (3)説明時は、全員プールサイド(管理室側)を向かせる ①耳抜き …バルサルバ法、その場でボディで交互に潜る 逆立ちから倒れ水面を確認して浮上→スノーケルクリア ②マスククリア ③水面でのフィン泳 …50m完泳、コースロープ下を移動する時に潜る→練習 ⑦エキジット (1)各コースに集合、ボディチェック (2)器材の管理方法 …海での使用後は真水で洗う・日陰で乾燥 (3)整理体操と体調チェック (4)本日のまとめ、更衣方法と下校時間などについて注意	前庭:2年担任団より2名 プール:体育科4名 (松本・征矢・鯨島・今西)  体育授業を想定して全員にブーツタイプの説明をする  ボディシステムを徹底する コースロープを掴むのOK  天候が良かったため 休憩を省く 気温31℃/水泳29℃  更衣室の退室時間を徹底
事後	8月28日(土)にGoogle classroom <131学年>に連絡を流す →スノーケリング実習のふり返り資料+実習記録ノートを配布 →「実習記録ノートの見本」を提出してくれる人を募集! →水泳授業におけるスノーケリングの案内+発展講習会(10/6?)	不参加生徒に個別実習を重ねている内に、事後指導の機会を逃す  実習記録ノートは紙を予定

参考資料「スノーケリングハンドブック」(吉田先生・元筑波大学/日本スノーケリング協会)  
 「スノーケリング安全手帳」「スキndaイビング・セーフティ」(千足先生・東京海洋大学/日本スノーケリング協会)  
 「HOW TO SNORKERING (DVD)」(遠矢先生・名城大学+AQ/日本スノーケリング協会)

スノーケリング実習の指導内容は、外部指導者の吉田先生や渡邊先生および大学院生と筆者が、6月30日に筑波大学のプールで研修会を実施しており、その内容を基本とした。9月の水泳授業においても授業後半の15分間は、スノーケリングの練習時間とした。

【スノーケリング実習の様子】



9コースに40名の生徒、不織布マスクを外して説明が必要なため、指導者と生徒間で距離をとる



コースロープを掴んで顔をつける段階からスタート  
体育科教員5名で細かくチェックしてサポートする

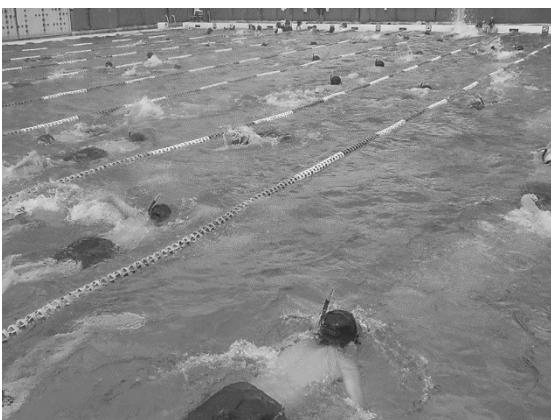


スノーケルクリアはできた？耳抜きはできた？  
水辺での「OKサイン」(ハンドシグナル)も確認

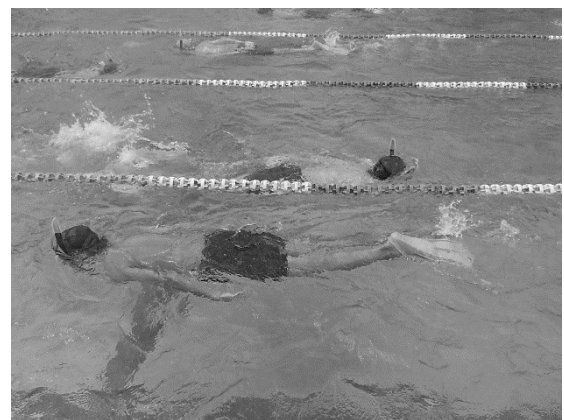


プールでの事前実習だからこそ、さまざまなパターンのトラブルを想定して練習をしている

【本校での事前実習Ⅱ～9月の水泳授業内でのスノーケリング練習～】



8月の実習だけでなく、9月の水泳授業でも2年生は継続してスノーケリングの練習を取り入れた



最終授業の頃には、器材の扱いにも慣れ、リラックスしてゆっくりとスノーケリングを楽しんでいる

## 【スノーケリングに関するアンケート調査Ⅰ（9月）】

9月末に水泳授業がすべて終わった時点で実施した「水泳授業に関するアンケート調査」に含める形で、スノーケリングを取り入れた水泳授業や、8月末のスノーケリング実習に関してアンケート調査をおこなった。未提出者6名を除き、第2学年の237名の回答について以下にまとめる。

①	スノーケリングを取り入れた授業		大好き	好き	どちらかと言えば好き	どちらかと言えば嫌い	嫌い	大嫌い	未記入
		人	65	87	66	12	4	1	2
		%	27.4	36.7	27.8	5.1	1.7	0.4	0.8

②	スノーケリングへの取組姿勢		すごく積極的	積極的	どちらかと言えば積極的	どちらかと言えば消極的	消極的	すごく消極的	未記入
		人	72	99	52	9	1	0	4
		%	30.4	41.8	21.9	3.8	0.4	0.0	1.7

③	スノーケリングの基本的な知識や技術		すごく自信がたった	自信がたった	どちらかと言えば自信がたった	どちらかと言えば自信がない	自信がない	まったく自信がない	未記入
		人	39	102	79	10	3	1	3
		%	16.5	43.0	33.3	4.2	1.3	0.4	1.3

④	スノーケリング泳力の自己評価	続けて泳げる距離						
			25m未満	25m程度	50m程度	100m程度	200m以上	未記入
		人	2	6	13	44	169	3
		%	0.8	2.5	5.5	18.6	71.3	1.3

スノーケリングを取り入れた授業には、9割を超える生徒が好意的で積極的に参加しており、その理由として「楽に長く泳げるようになる」「水中で呼吸できるのは新鮮」「フィンでぐんぐん進む」などの意見を多く挙げていた。また、少数であるが「嫌い」側の意見として、「呼吸が苦しい」「難しい」「水泳の時間が減ってしまう」などがあった。水泳授業自体を「好き」と答えた側の生徒が6割に届かなかったことから考えると、スノーケリングを取り入れることで、生徒の水泳授業への参加意欲を高める効果も期待できる。

スノーケリングの基本的な知識や技術に関しては、スノーケリング実習中に観察して、フォローが必要であると判断した生徒は、教員側でリストアップしている。そのリストとアンケート結果③④を照らし合わせて、「自信がない」側に答えた生徒と泳力の自己評価が25m程度以下の生徒については、沖縄に行く前に直接話を聞いて、不安を取り除くように努めた。また、本番では、技術的に課題があったり、不安が高い生徒については、教員が付き添ってボートに乗り、一緒にバディとしてスノーケリングをするなどサポートした。



(5) マリン体験プログラムの内容決定→「ボートからのスノーケリング体験」へ

今回の修学旅行では、現地の伊平屋島観光協会と本校のマリン体験プログラム担当者(筆者)が直接交渉しながら内容を決めていった。コロナの影響で修学旅行の正式な実施決定が1ヵ月前となり、臨機応変な対応が求められたり、生徒の意向を素早く現地に伝えることができるので、このように進めさせてもらった。(旅行社は大変だったかもしれない)

伊平屋島観光協会から届いたマリン体験の最初の案は、クラスごとに半日で、「スノーケリング」「バナナボート」「ビーチでのクラス活動(海水浴など)」であった。しかしながら、スノーケリングの時間が短いこと、バナナボートは楽しいが一瞬で終わってしまう(伊平屋でなくても体験できる)こと、濡れた体のまま着替えずにビーチで活動する時間が長いこと、などがNGであると伝え、以下の2点を踏まえて、再度一緒に検討することにした。

- ・クラスごとにビーチで活動する時間を確保したい ⇒活動内容は生徒が決める
- ・伊平屋島の美しい海を十分に体験できるようなプログラムにしたい

その結果、クラスごと半日にプログラムを詰め込むのではなく、伊平屋島に到着した1日目の午後に「クラスごとにビーチで活動する時間を2時間確保する」、2日目に「ボートからのスノーケリング体験を実施する」案を新たに準備していただいた。

沖までボートで移動してから足の届かない場所でスノーケリング体験を学年全体で行うのは、ハードルが高いようにも思われたが、スノーケリング実習や水泳授業などで事前練習を重ねてきたこと、ウエットスーツとライフジャケットの浮力体を両方着用して十分な浮力が得られること、生徒10名に対してガイド2名が付いてサポートすること、10名ずつボートに分かれて移動するのでビーチでの混雑(密になる状態)を減らせること、沖縄であっても11月中旬の海は水温が低いので短時間に濃縮して伊平屋島の海を体験できること、などを総合的に考慮して、最終的には第2学年の担任団の総意で決定した。

(6) 10~11月の修学旅行直前の準備

- ・10月26日の学年集会(体育館で対面)の中で、マリン体験に関して以下の説明をした
  - ①「スノーケリングとは、十分な浮力による水面での活動で、潜ることはしない」
  - ② ボートスノーケリングの特徴について説明し、不安があれば個別に相談に来る
  - ③「マリン体験学習 参加申込書」の趣旨を説明し、不安があれば個別に相談に来る
- ・「マリン体験学習 参加申込書」(生徒全員分)を伊平屋島観光協会に送付した  
⇒健康状態についてチェック項目があり、医師の診断書を要する場合もあった
- ・レンタル器材(ウエットスーツとフィン)サイズ一覧表を伊平屋島観光協会に送付した  
⇒現地でレンタルが不足するフィンは、学校所有のフィンを送って対応した
- ・スノーケリングの基本的な知識と技術を再度確認した  
⇒コロナ対応で修学旅行前5日間を自宅学習期間としたが、体育科からの課題として「スノーケリング実習の指導内容チェックリスト」をGoogleフォームで配信した

### 3. 修学旅行でのスノーケリング体験【本番】

ボートからのスノーケリング体験は、学年の生徒を約 60 名ずつ A 班～D 班に分け、4 ローテーションでおこなった。午前と午後で男女を分ける案を考えていたが、ウエットスーツの枚数に調整が必要なため男女混合での実施となった。生徒は、宿泊している各民家で水着に着替えて港まで送ってもらい、「当日朝の健康観察シート」を提出後、港でウエットスーツを借りて着用する。全体説明の後、各船に移動して出港し、スノーケリングポイントに到着後（船移動は 5 分程度）、45 分程度のスノーケリングを体験した。帰港後は、水着のまま各民家に車で戻り、風呂（シャワー）を浴びて着替え、すべて終了となる。

#### スノーケリング体験 班割り・船割り

2021年11月17日実施

朝～	民泊体験	スノーケリングの班割り(船割り)					
8:30	A班 集合・準備・出発	大型船		小型船 I	小型船 II	小型船 III	小型船 IV
8:45							
9:00	A班 海洋実習 スノーケリング 9:00～10:00	1組 女子 10名	1組 女子 10名	3組 女子 10名	3組 女子 10名	6組 男子 11名	6組 男子 10名
9:15							
9:30							
9:45							
10:00							
10:00	A班 片付け						
10:15	A班 解散						
10:30	B班 集合・準備・出発	大型船		小型船 I	小型船 II	小型船 III	小型船 IV
10:45							
11:00	B班 海洋実習 スノーケリング 11:00～12:00	2組 女子 10名	2組 女子 9名	5組 女子 10名	5組 女子 10名	3組 男子 11名	3組 男子 11名
11:15							
11:30							
11:45							
12:00							
12:00	B班 片付け						
12:15	B班 解散						
12:30	昼食休憩						
12:45							
13:00	C班 集合・準備・出発	大型船		小型船 I	小型船 II	小型船 III	小型船 IV
13:15							
13:30	C班 海洋実習 スノーケリング 13:30～14:30	4組 男子 10名	4組 男子 10名	1組 男子 11名	1組 男子 11名	4組 女子 10名	4組 女子 9名
13:45							
14:00							
14:15							
14:30							
14:30	C班 片付け						
14:45	C班 解散						
15:00	D班 集合・準備・出発	大型船		小型船 I	小型船 II	小型船 III	小型船 IV
15:15							
15:30	D班 海洋実習 スノーケリング 15:30～16:30	5組 男子 10名	5組 男子 9名	2組 男子 11名	2組 男子 10名	6組 女子 10名	6組 女子 10名
15:45							
16:00							
16:15							
16:30							
16:30	D班 片付け						
16:45	D班 解散						
17:00	民泊体験						

【沖縄伊平屋島でのスノーケリング体験の様子】



伊平屋島の野甫港に集合。ウエットスーツを着用して船ごとに整列し、水中マスクに曇り止めをする



60人が5つの船に分かれて出港。スノーケリングをするポイントまでは5～10分程度で到着



浅い場所はエメラルドグリーン、深くなると群青色。波しぶきを浴び、伊平屋島の地形を海から楽しむ



ポイントに到着。マスク・スノーケル・フィンを装着し、バディチェックができた生徒から順に入水



生徒10名に対して、救命ブイを持ったガイドさん2名が前後についてサポート。教員も補助に入る



初めて海中をみた瞬間、5～10mの底まではっきりと見える透明度と深さに驚く。バディで移動開始

【沖縄伊平屋島でのスノーケリング体験の様子】



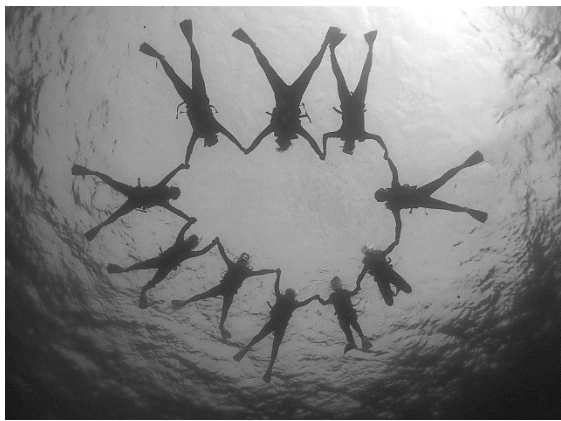
ウエットスーツにライフジャケットの浮力体なので  
潜ることはできない。水面から海中を観察する



小笠原からの軽石が所々漂い顔に当たることも。  
「軽石の無い海も見てほしかった…」とガイドさん



始めはぶつかり合っていたバディも適度な距離感  
をつかみ、比較的自由にスノーケリングを楽しむ



各船に水中カメラを1台ずつ渡している。ガイドさん  
にお願いして下から写してもらった記念の1枚



美しいサンゴに魚たち。ウミガメ、ウミヘビ、ネムリ  
ブカなど、大小さまざまな魚に出会えた生徒もいた



スキンドайビングやスクーバダイビングでじっくり  
海中を観察したくなるような地形。ぜひ次は！

## 【スノーケリングに関するアンケート調査Ⅱ（11月）】

11月17日にスノーケリング体験をして、東京に戻った後の最初の登校日である11月22日に、今回のスノーケリング体験を振り返る筆者からのコメントを含めた「スノーケリングに関するアンケート調査Ⅱ」を配布し、11月25日に回収した。スノーケリング参加者は241名で、未提出者5名を除き、第2学年の236名の回答について以下にまとめる。

①	ボートに乗り出港から海に入る直前までの気持ち	すごく楽しみだった	楽しみだった	どちらかと言えば楽しみ	どちらかと言えば不安	不安だった	すごく不安だった	未提出	
		人	108	71	26	20	8	3	5
		%	45.8	30.1	11.0	8.5	3.4	1.3	

港に到着してから“流れ作業”的にボートスノーケリング体験は進んでいく。「楽しみ」な気持ち側の生徒が86.9%もあり、ワイワイとした雰囲気の中で、「不安」を感じている生徒を見つけ出すことは難しい。不安を感じていた生徒31名の内、22名は100m以上続けて泳ぐことができる生徒であり、泳力がある＝不安がない、訳ではない。また、事前アンケートでスノーケリングの基本的な知識や技術に「自信がない」と答えていた生徒14名の内、直前に不安を感じていた生徒は3名だった。不安はパニックを引き起こす要因の1つであり、少しでも取り除く対応が求められる。泳力や事前アンケートの結果はあくまで参考で、不安を申し出やすい環境づくりやバディによる相互観察の徹底が大切だと感じた。

②	伊平屋島のガイドさんのサポート体制	すごく満足している	満足	どちらかと言えば満足	どちらかと言えば不満足	不満足	まったく満足していない	未提出	
		人	127	77	27	5	0	0	5
		%	53.8	32.6	11.4	2.1	0.0	0.0	

「すごく満足している」「満足している」を合わせて86.4%であり、伊平屋島のガイドによるサポート体制は「非常によかった」と生徒は感じている。その理由として、「2人体制ですぐにサポートしてくれた」「ウミガメや珍しい魚をみせてくれた」「潜って下から写真を撮ってくれた」「自由に泳がせてくれた」「船を激しく運転して楽しませてくれた」「スノーケリング後に船上から飛び込ませてくれた」などを挙げている意見が多い。マイナスの意見としては、「もう少しスノーケリングや魚のことを説明してほしかった」「ご自由に、という感じが少し嫌だった」「移動ペースが速かった」などであった。今回は、ガイドであり指導者（インストラクター）ではない。その点を踏まえても、事前指導が重要となる。

### ③ 今回の「ボートからのスノーケリング体験の流れ」で気になったところ(改善案など)〈自由記述〉

今回の体験の流れについて、「民家さんに車で送ってもらい港に到着する」～「民家さんに車で迎えに来てもらい各家へ帰る」までを12の場面に区切って「気になったところ」を質問した。港に更衣場所やシャワーなどの施設は無く、「民家から水着に着替えて集合し、

場面	多かった意見など
1 民家さんに車で送ってもらい港に到着する	昼ごはんの後すぐだったので、気持ち悪くなった(1名)
2 「当日の体調チェック表」を提出する	事前にGoogleフォームで回答できたら楽だった(1名) 体調確認では個人情報をもっと大切にしてほしい(1名)
3 ウエットスーツや器材を借りる	ウエットスーツが濡れていて冷たく寒かった、着にくかった(8名) 事前に申し込んでいたサイズが足りずに違うサイズを渡された(3名) ウエットスーツがきつくて、船に乗る前に気持ち悪くなった(3名)
4 着替える	荷物を置くスペースで着替えている人がいた、 男子にも着替えるスペースがほしかった、 風があたらない更衣場所があるとよい (計18名)
5 ボートスノーケリングについて説明を受ける	もう少しスノーケリング体験の全体像を教えてほしい(2名)
6 各船に移動して出港する	ボートへの持ち物を飲み物やサンダルなど記してほしい(2名) 船酔い対策をもっと教えてほしい(1名)
7 米崎ビーチ沖の各ポイントに到着して準備する	いきなり始まった。フィンのチェックなど声かけがほしかった(2名)
8 ボートから海に入りスノーケリングを体験する	潜りたかった、もっと長い時間体験したかった(4名)
9 海からボートに上がり休憩する	このタイミングで体を拭きたい、タオルを忘れた(2名)
10 帰港する	寒かった(4名) 船によって帰港する時間に差があった、もっと体験できた(2名)
11 ウエットスーツを脱いで器材を片づける	着替える場所がほしい、温かいシャワーを浴びたい(計15名)
12 民家さんに車で迎えに来てもらい各家へ帰る	民家さんの車に乗る時に座席を濡らしてしまい申し訳ない(6名) スノーケリングするグループが別で車で待つ時間が寒かった(1名)

体験後に、「民家に帰ってから着替える」を基本としていた。現地の施設を改善することは難しいが、伊平屋島観光協会と連絡を密に取り、情報を収集して、事前に対策を講じるよう重ねて生徒に注意をすることはできた。また、ウエットスーツが濡れていることや水温による寒さを防ぐために、船での移動の際にはウエットスーツの上に防寒着を着たり、スノーケリング後にタオルを用意して直ぐに体を拭くなどの対策も徹底すればよかった。

ボートでの移動では、タオルが風で飛んだり、タオル自体が濡れてしまうことも多い。港でボートに乗り移る際に、荷物を海に落とすようなトラブルも多いので、今回は持ち物として、マスク・スノーケル・フィン以外の指示を特別には出さなかった。

④ スノーケリング体験の満足度		すごく満足している	満足	どちらかと言えば満足	どちらかと言えば不満足	不満足	まったく満足していない	未提出
	人	135	62	29	9	1	0	5
%	57.2	26.3	12.3	3.8	0.4	0.0		

「すごく満足している」「満足している」を合わせて 83.5%、「どちらかと言えば満足」を含めると 95.8%の生徒が「満足」側に答えており、今回のスノーケリング体験が「非常に満足度の高い体験であった」ことがわかる。その理由として、「サンゴの重なり、白い砂地、青い魚の群れ、想像を超える素晴らしい景色をみることができた」「海の中の景色が想像以上にきれいで、またライフジャケットを着ていたの安心して楽しむことができた」

「とても美しい海の中を仲間と一緒に見ることができ、家族旅行では体験できないことができた」「言葉で表現すると陳腐になるほどスノーケリングが楽しかった」「美しい海に包まれて自分の成長を感じることができた」「事前のスノーケリング練習の成果を伊平屋の海で実感できて楽しむことができた」「こんなに沖縄の海がきれいだとは思わなかった」

「泳げない私でも楽しむことができた」「今でもあれは幻だったのでは？と思うほど美しい海をみることができた。透明度に本当に驚いた」など、一部のコメントを見ただけでも理解することができる。また、「不満足」「どちらかと言えば不満足」「どちらかと言えば満足」と回答した 39 名の生徒の理由を見てみると、10 名が「船酔いや寒さ」、5 名が「潜りたかった」、5 名が「ただ景色を眺めているだけで、魚が少なかった」、2 名が「海はキレイだが、やはり軽石が気になった」などを挙げていた。

⑤ 今回のスノーケリング体験でみつけた自分の課題など(反省点なども含む)〈自由記述〉

「フィンワークがバタバタして、後ろのメンバーに迷惑をかけた」「フィンを上手に使い、体力を消耗せずに進めるようになりたい」など、フィンの使い方に関する記述が最も多く、次いで、「船酔いや波酔い対策」、「グループ・バディ行動の徹底」などであった。

フィンの使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィンを使って上手く泳げなかった、進みが遅くてついていくのが大変だった</li> <li>・フィンを落として、みんなと一時、別行動になってしまった</li> <li>・足をバタバタしてサンゴを傷つけてしまった、ゆっくり動かし傷つけないようにしたい</li> </ul>	(計22名)
船酔いや波酔い対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な睡眠や酔い止めを飲むなど、船酔いへの対策をしっかり工夫すべきだった</li> <li>・乗り物酔いがひどくて楽しむどころではなかった</li> </ul>	(計15名)
グループ・バディ行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海中観察に夢中になりコースから外れて戻ることが多々あった</li> <li>・魚をみることに夢中になって、ガイドさんの話をあまり聞いていなかった</li> </ul>	(計13名)
スノーケルの使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔の角度やスノーケルが真上を向いているかなど、もっと注意するべきだった</li> <li>・海水をまあまあ飲んでしまった、スノーケルクリアがもっと上手できるようになりたい</li> </ul>	(計12名)
体力不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力が無くて疲れた、途中で足がつりそうになった</li> </ul>	(計5名)
寒さ対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒さに弱い、海に入ると震えてしまう、防寒対策を考える</li> </ul>	(計4名)
水中マスクの使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曇り止めは効果抜群なので忘れないように、マスククリアをしたい</li> </ul>	(計3名)
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スノーケリングの前、ウエットスーツを着る前にトイレに行っておく</li> <li>・飲み水などを港に忘れてしまった(船に持って乗ればよかった)</li> <li>・直ぐに脱げるようなシューズで移動して、船から降りるときにこけたので気を付けたい</li> <li>・魚が思った以上に近く感じたり、海が深く、怖がってしまった、余裕が無かった</li> <li>・持病がありスノーケリングへの参加を慎重になり過ぎたが、でもそれでよかったと思う</li> <li>・スノーケルとマスクの管理が悪くて無くしてしまった</li> <li>・スノーケリングの復習を自分でしておいたので、特に困ったこともなく、反省点もない</li> </ul>	

⑥

修学旅行を終えて スノーケリングの 基礎的な知識と技術		すごく 自信がついた	自信がついた	どちらかと 言えば自信	どちらかと 言えば自信ない	自信がない	まったく 自信がない	未提出
	人	63	93	74	5	1	0	5
%	26.7	39.4	31.4	2.1	0.4	0.0		

ボートで沖まで移動してからのスノーケリング体験は、泳力(脚力)に関わらず楽しみやすいというメリットはあるが、水温の低さや流れの強さなど、初心者には難しい面もある。今回の体験後に、事前練習で得た自信を失うこともあるのでは、と気になっていた。結果的に、「すごく自信がついた」「自信がついた」で 66.1%、「どちらかと言えば自信がついた」を含めると 97.5%と高く、「自信が無い」側の生徒の数もアンケート I の 14 人から減っていることから、海での体験を終えて「生徒の自信は高まった」と言えるだろう。

⑦	今後の海での活動 スノーケリングについて		自ら積極的に 参加したい	機会があれば 参加したい	どちらかと言え ば参加してもいい	どちらかと言え ば参加したくない	参加したくない	もう二度と 参加したくない	未提出
		人	67	112	41	11	3	2	5
		%	28.4	47.5	17.4	4.7	1.3	0.8	

⑧	今後の海での活動 スキューバダイビングなど		すごく思う	思う	どちらかと言え ば思う	どちらかと言え ば思わない	思わない	まったく 思わない	未提出
		人	63	51	72	33	7	10	5
		%	26.7	21.6	30.5	14.0	3.0	4.2	

今後の海での活動について質問したところ、スノーケリングについては、「自ら積極的に参加したい」「機会があれば参加したい」で75.9%と高かった。一人でも多くの生徒が、生涯スポーツの1つとしてスノーケリングに親しむことができるように、本校に在籍している残り期間（3年次の水泳授業など）で、スノーケリングにふれる機会を設けたい。また、スノーケリングからさらに発展させたスキューバダイビングやスクーバダイビングについても5割近い生徒が挑戦してみたいと答えている。本取り組みの最初の予定では、7月に学年全体でのスノーケリング実習、8月には希望者によるスキューバダイビング実習をおこない、伊平屋島でも「スキューバダイビング班」を編成したいと考えていた。それができていれば、「潜りたかった」と答えた泳力の高い生徒たちの期待にも応えることができただろう。

⑨ 伊平屋島・米崎ビーチ沖の海中を見て、どのように感じたか？～印象に残っていることなど～

A班からD班まで4ローテーションでの体験で、朝一番目の班は気温が低く、途中で雨が降った班もあった。太陽の光が差し込んだ美しい海中を観ることができた班もあった。また、各回に5艇の船が米崎ビーチ沖に停泊して、そこから入水するが、一定の距離を取るため、サンゴの群生を観ることができた船、魚を多く観ることができた船、ウミガメや小さなサメなどに出会えた船…など、船によって体験できた内容も異なる。伊平屋島の海の魚は、リゾート地と違い人に慣れていないのか、急いで逃げていく姿も印象的だった。以下に、生徒の感想から多かったコメントを中心に選び、さらにその一部を抜粋する。

【生徒の感想】

- ・最初に顔を海面につけた時の感動が忘れられない。視界いっぱいのサンゴとカラフルな魚たちがとてもキレイだった。谷のような地形も面白かった。深い海底もしっかり見えて、海のキレイさに驚いた。とてもよい経験だった。
- ・ボートから海へ入って海中を見た瞬間、目の前にサンゴ礁とたくさんの魚が泳いでいる世界が広がっていて、とても驚き、感動した。海底の白砂がきれいに見えて、水中の自分の手も水を通していないぐらいはっきりと見え、海の透明度が高いことを実感できた。どれも初めてで、とても楽しい体験だった。
- ・人生で初めて海に入った。もともと高い所が苦手だったため、想像をはるかに超える海の深さに恐怖を感じた。しかし、それも始めの数分で消えて、サンゴ礁の美しさや海の魚を実際に見ることができ、とても楽しめた。自分が思っているより数十倍も世界は広いのだなあ...と、不思議な感覚をおぼえた。一生記憶に残ると思う。
- ・曇っていて、日光が差していなかったけど、海底まで見えて、空を飛んでいるみたいだった。晴れている時に、また見てみたいと思った。サンゴを壊してしまいそうで、少しこわかった。



- 船の上から海の中を見た時に、海底まで見る事が出来るほど透き通っていて、本当に感動しました。美しいサンゴや多くの魚の群れ、ウミガメまでも見ることができ、貴重な体験ができたなと思います。沖縄に行く機会があったら、またスノーケリングをしたいです。
- とても楽しかった。小魚をたくさん見ることができたが、他クラスは大きめの魚やウミガメを見た人が多いと聞いたので、朝イチのスノーケリングではなく、12:00～14:00 くらい時間帯でスノーケリングがしてみたいと思った。
- 軽石の影響もあって海が濁っているとも言っていたが、そんなことは感じないくらいきれいだった。むしろ軽石の経験までさせてもらえて一生忘れられない体験になった。
- 所々、白化しているサンゴがあり、地球温暖化の影響を直に感じた。また、軽石が水中で浮いていて、これらが無くなったらもっと美しいだろうなと思った。海が果てしなく続いている感じがして、ずっと泳いでいたかった。
- 伊平屋島の海は、透明度が非常に高く、天然の珊瑚や海の生物をゆっくりと見ることができた。自分は水泳が苦手だが、それを気にする必要もなく、少し寒かったが、貴重な体験だったと感じた。
- 今までウミヘビの存在をよく知らなかったの、見た時は一瞬にかと思っただけだが、本島に戻って美ら海水族館に行った際に展示をみて、ウミヘビだと発見したのも良い思い出になった。
- サンゴが思ったより複雑な構造をしていて、自然のすごさを感じました。魚もたくさん見られて、すごくいい経験ができたなと思いました。
- さすがのサンゴ礁。ベラ、スズメダイ、ニザダイの仲間が多かった。私の好きなモンガラカワハギやホンソメワケベラも見ることができ、ずっと夢中になっていた。
- 人間向けではない海の世界をそのまま見ることが出来た気がして、新鮮で二度とない経験だと思った。魚たちが集団で生活しているのも、そのままの生活をのぞくことができた気になれてよかった。
- 本当にきれいで、疲れを感じないくらい楽しかった。海の中の世界に少しお邪魔させてもらっている感じや、魚を近くで見ることができたのがワクワクした。ライフジャケットがあったので楽だったし、楽しむことができた。
- 思っていた以上にキレイで不思議な感覚だった。そもそも海が臭わないことがはじめての経験で驚いたし、泳いでいる時も、透き通り過ぎて海の中にいる感じがしなかった。スノードームの中に閉じ込められたみたいだった。
- 水族館に置かれているサンゴが、見る人を楽ませるためにいろいろな色を集めて配置していることも知ることが出来た。天然のサンゴは同じ種のものが広がっていて、かなり広い範囲にあることがわかった。
- 水族館でおなじみの熱帯魚が野生のありのままの姿で見れたことは大変素晴らしかった。サンゴ礁が終わり、海底が砂地になる境界付近ではサンゴ礁で崖が形成されていて、さらに下の方に大きな魚もいたので圧倒された。
- 深いところでは空を飛んでいるようで感動したが、沖縄にしては魚が少なく物足りなかった。また、スノーケリング自体の時間が短く、もっと泳いでいたかった。軽石はちょうどよい量で、まるで小惑星のようでキレイだった。
- ウェットスーツとライフジャケットを着用していたので沈む心配はなく安心でしたが、プールでやるのと違い、波があり、足がつかない状態でのスノーケリングだったので 100%楽しめたかという、そうではなかったです。
- スノーケリングポイントへ移動する船は、風を切ってぶっ飛ばして走り、気持ちの良い時間を過ごせた。とても楽しい時間は一瞬で、何度でも入りたいと思える体験でした。ありがとうございました！
- 船酔いがひどくて少ししか見ることができませんでしたが、本当にきれいでした。ウミガメや魚、イソギンチャクも見れたので、一生の思い出になりました。
- よく最近、サンゴが死んでいるという話を聞くけど、青やピンク、緑と自分が思っているよりもカラフルで、私は魚よりも感動した。海が深いところほど青くて、きれいだった。ウミガメも見れて、とてもかわいくて嬉しかった。

#### 4. まとめ

本年度の2年生を対象とした「水辺での野外活動の力を育む」取り組みをふり返ると、

- ・4月、保健体育科、第2学年担任団、教員全体での会議を経て動き出し、事前講習会の外部指導者として日本スノーケリング協会（吉田先生）や筑波大学野外運動研究室（渡邊先生）の了承を得るなど、体制を整えることができた。
- ・5月、保護者会にて本取り組みを説明し、水中マスクとスノーケルなどの個人購入について理解を求めた。スノーケリング器材の購入に関しては、AQA（株式会社キヌガワ）の協力を得てスムーズにおこなうことができた。
- ・7月、外部指導者による事前講習会「スノーケリング実習と野外活動に関する講義」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大で緊急事態宣言が発令され、8月末に延期することになった。
- ・8月、事前講習会は（コロナ禍が続いており）、外部指導者と実施方法を検討した結果、筆者を中心に体育科が指導者となり、2年担任団のサポートを得て、実施することになった。2日間で計6回+予備日に生徒を分散して、スノーケリング実習をおこなった。
- ・9月、2年生の水泳授業では、後半15分間を使うなどして、スノーケリング練習を重ねた。アンケート調査Ⅰからは、スノーケリングを取り入れた授業への高い参加意欲と基本的な知識や技術に対する自信の高まりを感じることができた。
- ・10月、修学旅行先の伊平屋島観光協会とマリン体験プログラムの内容について検討を重ねボートからのスノーケリング体験を実施することに決定した。その際、浮力体の装着や生徒10名に対してガイド2名がサポートに付く体制を確認した。
- ・11月〈直前〉、学年集会で、スノーケリング体験の詳細について説明し、「参加申込書」の提出やレンタル器材の数量調整など、準備を進めた。また、直前の自宅学習期間には、スノーケリングの基礎を復習するための課題をGoogleフォームで配信した。
- ・11月〈本番〉、沖縄県伊平屋島の米崎ビーチ沖で、午前と午後で計4回、60名を5艇に分けて、ボートからのスノーケリング体験を実施した。アンケート調査Ⅱには、非常に高い満足度と自信の高まり、今後の継続について前向きな意見が多く示されていた。

以上から、本取り組みの全体計画および目的である「修学旅行先で、安全にスノーケリングができるようになる」「将来のために、安全にスノーケリングができるようになる」について、かなりの部分で達成できたのではないかと評価している。

筆者は、外部指導者をお願いした吉田先生に学生時代より師事し、現在に至るまで継続的に指導を受けてきた。また、これまでの勤務校においても学校プールを活用した水辺での野外活動（スノーケリングやスクーバダイビングなど）の実践を積み重ねてきている。その経験を活かして、本取り組みをリードさせていただいたが、本校体育科の強力なバックアップ体制と第2学年担任団の細やかなサポートが無ければ、“不確定なこと”が多く

ギリギリまで臨機応変な対応を求められた本年度の取り組みにおいて、“迷うことなく”（不安を抱くことなく）目的に向かって、このように進めることはできなかった。ただし、本年度の取り組みの中で、「計画していたが、できていないこと」もある。「次回に、挑戦してみたいこと」も含めて以下に記しておく。

- ・スノーケリングの基本的な技術を習得した生徒の中で、希望者に対しては、スキンダイビング（息こらえ潜水）の実習をおこない、沖縄の現地でも専門のインストラクターについてもらって、スキンダイビング体験を実施する。
- ・現地の海の中を体感するだけでなく、魚やサンゴの種類がわかるように教材を作成したり、体験後に海での活動を記録する「ログブック」を作成するなど、事前と事後学習を充実させる。（これまでの外部指導者は手厚くおこなってきた。）
- ・今回のスノーケリング実習では基本的な知識や技術を学ぶだけでなく、「教える」の視点も大切にしてほしいと生徒には伝えていた。体験する（参加する）だけでなく、教え方や周囲をサポートできる力をつけるために、リーダー講習会などを実施する。

最後に、

「経験を積むほど、水辺での野外活動の怖さを知る」と言われるが、積極的に継続的に挑戦していかないと、今回の伊平屋島のような海の中を体感することはできない。生徒たちには、自らの力を過信することなく、生涯にわたって安全にスノーケリングに親しみ、豊かな自然の世界を楽しんでいってくださることを願っている。

### 謝 辞

沖縄県伊平屋島でのスノーケリング体験は、観光協会の白井さん、横溝さん、井野さんのご尽力と、素晴らしい海の世界を安全に案内して下さったガイドの皆さんのご協力によって実施することができました。また、民泊体験をさせていただいたご家庭においても生徒の健康状態を把握し、万全の体調で活動できるようにサポートしていただきました。多くの方々のご理解とご協力に対し、記して感謝申し上げます。

### 参考文献

- 1) 宮崎明世、「修学旅行におけるスノーケリングの取り組み－2005年度修学旅行の実践から－」、筑波大学附属高等学校研究紀要、第47巻、2006、pp.61-76
- 2) 松本英樹、「高校における水辺活動を取り入れたプールでの体育授業の実践」、大阪教育大学附属高等学校平野校舎研究紀要、第17号、2014、pp.1-14
- 3) 松本英樹、「平成26年度 沖縄北部体験学習（伊平屋島）の報告書」、大阪教育大学附属高等学校平野校舎研究紀要、第18号、2015、pp.79-88

2021年11月22日

## 伊平屋島でのスノーケリング体験を終えて（アンケート）

本年度の修学旅行は、「生涯に渡って海での活動を安全に楽しむための基礎的な知識と技術を身につける」ことを目的の1つとして、スノーケリング体験を重視しました。事前に実習や水泳授業で練習を重ねることができたので、伊平屋島観光協会さんと相談して、よりダイナミックな体験ができるポートスノーケリングに学年全体で挑戦することにしました。天候や海況、軽石による濁りなどを考慮して決めた米崎ビーチ沖のエリアは、テーブルサンゴが多く、魚影も濃く（ウミガメやネムリブカに会えた人もいたそうです）、流れやうねりもあり、初級～中級者向けのエリアといえるでしょう。よって、“海の中をゆっくりと楽しむ余裕がなかった人”もいたと思います。

今回の修学旅行でのスノーケリング体験は、ゴールではありません。次年度以降、海に出かける際には、スノーケリングセットを持参して、足がつくような浅い場所で、ゆっくりじっくり海中を観察する段階から“自分のペースに合わせて楽しんでほしい”と思います。そのための基礎的な知識や技術は学習してきているので、1つずつ確認してくださいね。また、今回の実践的なスノーケリング体験を終えて、課題や質問等を抱いた人は、直接相談に来てください。自然（アウトドア）の魅力を十分に感じながら、深く楽しむようになるためには、“体験する”だけでなく、“ふりかえり”が大切です。

海洋プログラムの担当（松本）より



以下は、修学旅行でのスノーケリング体験に関するアンケート調査です。調査結果は、今後の修学旅行の企画運営に活かしたり、伊平屋島観光協会さんにフィードバックする予定です。また、筑波大学大塚地区の附属校と筑波大学による合同研究においても活用し、その後の研究会や研究紀要等でも発表・掲載する予定です。事前調査と比較検討するため氏名を記入してもらいますが、個人に焦点をあてた分析をおこなったり、成績等に影響することは一切ありませんので、よく考え、丁寧に回答してください。

組 番 氏名

### (1) 伊平屋島でのポートからのスノーケリング体験について

- ① 伊平屋島・米崎ビーチ沖の海中を見て、どのように感じましたか？～印象に残っていることなど～スノーケリング全体を通しての感想・意見・質問などでも結構です。※裏面も使用可です。


【資料：アンケートⅡ②】

② ポートに乗って出港する時から、海に入る直前までの気持ちについて

すごく  
楽しみだった ・ 楽しみだった ・ 楽しみだった ・ 不安だった ・ 不安だった ・ 不安だった

③ 伊平屋島の海のガイドさんたちのサポート体制はどうでしたか？

すごく  
満足している ・ 満足 ・ 満足 ・ 満足 ・ 不満 ・ 不満 ・ 満足していない

〈その理由〉

④ 今回の「ポートでのスノーケリング体験の流れ」について気になったこと（改善案など）

1. 民家さんに車で送ってもらい港に到着する
2. 「当日の体調チェック表」を提出する
3. ウェットスーツや器材を借りる
4. 着替える
5. ポートスノーケリングについて説明を受ける
6. 各船に移動して出港する
7. 米崎ビーチ沖の各ポイントに到着して準備する
8. ポートから海に入りスノーケリングを体験する
9. 海からポートに上がり休憩する
10. 帰港する
11. ウェットスーツを脱いで器材を片づける
12. 民家さんに車で迎えに来てもらい各家へ帰る

〈1～12 どの項目でも結構です。あれば書いてください。〉

⑤ 今回のスノーケリング体験について

すごく  
満足している ・ 満足 ・ 満足 ・ 満足 ・ 不満 ・ 不満 ・ 満足していない

〈その理由〉

⑥ 今回のスノーケリング体験で見つけた自分の課題（反省点など含む）があれば、書いてください

(2) 今後の海での活動（スノーケリング体験など）について

① 修学旅行を終えて、自分のスノーケリングの基礎的な知識や技術についてどう思いますか？

すごく  
自信がついた ・ 自信がついた ・ 自信がついた ・ 自信がない ・ 自信がない ・ 自信がない

② 今後の海での活動（スノーケリング）について、どのように思いますか？

自ら積極的に  
参加したい ・ 機会があれば  
参加したい ・ どちらかと言えば  
参加してもいい ・ どちらかと言えば  
参加したくない ・ 参加したくない ・ もう二度と  
参加したくない

③ スキンダイビングやスクーバダイビングなど上級の体験（ステップアップ）をしたいと思いませんか？

すごく思う ・ 思う ・ 思う ・ 思わない ・ 思わない ・ 全く思わない

提出め切は、11月25日（木）です。過番が回収用封筒に集めて体育科（松本）に提出してください。